

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援西宮たんぼぼ(つぼみ)				公表日	2026年2月26日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令に基づく十分なスペースが確保しています。園庭も整備し、砂遊びや水遊び等も行っていきます。活動内容に合わせて、都度スペースを有効に使えるような工夫をしています。	今後も療育や活動の内容、こどもの状況に合わせて配慮しながらスペースを有効に活用するとともに必要に応じてパーテーション等で環境調整をします。	
2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		法令で定められた人員を配置に加え、管理栄養士を配置し療育を行っています。また月に3回程度、作業療法士、理学療法士が療育に入り、様々な職種で連携して支援を行っています。	より良い支援ができるように、今後も児童数に応じた適切で有効な職員配置をし対応してまいります。		
3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		トイレは車いすでも入れるよう広い空間を設けており、おむつ替え台も設置、補助便座の活用等でバリアフリー構造となっています。玄関前にはスロープ、てすりを設置。床はフラットな構造となっています。	今後も安全に配慮を向け、ご利用いただく児童ひとりひとりに合わせた環境整備を行ってまいります。		
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		こどもたちが快適に過ごせる空間づくりを大切に、室内に季節を感じる季節のテーブル、生きた花などを配置するとともに、机や椅子、玩具や調理器具等の消毒や清掃・換気を徹底、感染症予防等への対策も実施しています。	今後とも安心して過ごせる心地よい清潔な空間を維持していただけるように、衛生管理や、空間づくりに努めてまいります。		
5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		一人になりたい子には落ち着いて過ごせるよう、廊下の階段下にクールダウン室を設けています。また必要に応じ部屋を仕切り、パーテーションを利用し、落ち着ける環境を整えています。	引き続き、こどもたちひとりひとりに合わせて、部屋の使い方やスペースの区切り方を工夫していきます。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員懇談を実施して個々での目標の設定を行い、振り返り際の達成度も考えられるようにしています。また会議等で職員から療育について振り返る場も設けました。	個人別育成の中での目標設定を明確化し、取り組んだ成果が、より見えやすくなるようにするなど、チーム検証と共に、PDCAサイクルの効果を実感できる仕組みづくりを考え、療育が向上していくように努めます		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議にて結果について共有し、職員同士で、事業所の強みをより活かす方法や、弱みに対してできる対策等を考える場を設けました。	職員会議で話し合った対策を早速行い、業務改善につなげていきます。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に個別面談を実施することで、意見の汲み取りを行っています。また、職員会議やクラス会議でも意見交換ができる場を設けています。	意見の出しやすい仕組み作りを職員より聞き取るなどし、今後も検討し、意見交換のしやすい環境づくりを目指します。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		2022年度に第三者評価を行い、評価結果をもとに業務改善を現在も実施しています。	5年に一度、第三者評価を受けています。次回は2027年度に実施予定です。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加したり、事業所での職員研修や、法人全体研修等の内部研修も取り、チーム全体の支援の質を高めると共に、個別育成プログラムにより職員の強みを引き出すよう努めています。	今後も職員の声を聞きながら、充実した研修の機会を設けていき、職員の資質を高めるとともに、療育の向上に努めます。		
適切な支援の	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者にご利用日を選んでもらう際に療育プログラムをお知らせしています。また、HPに支援プログラムを公表しています。	ご利用者だけでなく、事業所を探しておられるかたにもプログラム内容や目的が分かりやすく伝わるような方法をさらに工夫を重ねます。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者に要望書に記載いただき、モニタリング会議の中で課題を分析して支援計画を作成しています。	引き続き、こどもたちのニーズをとらえ、個別支援計画に反映できるように努めていきます。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		こどもの状態をクラス会議にて共有するとともに、職員との「モニタリング会議」を実施することで適切な課題共有のもと、個別支援計画を作成しています	さらに広く職員からの意見を取り入れたり、日々の支援に関する共有方法等は、今後も検討をしていきます。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフ間で共有している「月案」や「週案」に支援内容を記載することで、計画に沿った支援が行えるようにしています	今後も支援計画内容の共有が深まることで療育の充実を図るために、会議や打ち合わせの持ち方や、計画書の書式等、最良化を図ります。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		JSIRを保護者およびスタッフで記載し、感覚統合の面からアセスメントを行うとともに、今年度はSM社会能力検査も活用し、アセスメントを行いました。	アセスメントツールを使いこなし、こどもの行動や状態をより詳しく適切に把握していきます。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに記載されている5領域を踏まえて個別支援計画を作成しています。	立てた計画を踏まえながら、ガイドラインに記載されている「本人支援」や「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」等を意識しながら日々療育を実施します。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		クラス担任の下、日々のミーティングや、クラス会議等で、活動プログラムに対する振り返りや改善点等の意見を出し合い、立案しています	チームの意見が出やすい場や仕組み等を再検討することでより良い活動プログラムが実施できるようにします。		

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	1年を通して食育を行い、繰り返し体験することで、子どもたちの確かな力を養っています。子どもたちの成長に合わせ、手でちぎったりこねたりする作業から、道具をつかった取り組み、おともだちとの取り組み等を加える等、子どもの状態にあったプログラムを考えています。	子どもたちの様子をよく観察し、やってみたい、と意欲的に取り組めるようプログラムに工夫を重ねます。また食育以外の活動でも、子どもたちが毎日楽しく心地よいリズムで過ごせるよう、プログラムをさらに充実させていきます。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援/放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	小集団での活動を基盤としながら、子どもの状況に応じて個別で過ごせるよう場所を確保し、個々に応じた支援が行えるよう工夫しました。	静かに過ごせるスペースの確保、一人で集中して取り組める活動の工夫等、個々によりふさわしい支援ができるよう、工夫していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	事前に日案を共有し、その日行われる支援や役割分担を理解した上で療育にのぞめるようにしています。	今後も準備や打ち合せの時間を大切にしていこうと、よりチームで連携をとっていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	長時間療育を行っているため、午後と夕方に分けふりかえりの時間を設けたり、ラインワークスで周知を行ったりと工夫しながらチームで気付いた点を共有できるようにつとめています。	今後も振り返りの時間を充実させていこうと、その日の気付きを次回にいかすことができるようにしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎回個別記録に支援の状況や様子を残り、次回の支援に活かせるようにしています。	記録の取り方、記録用紙の書式等、より支援の改善に活かせる方法を検討していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半期に一度モニタリング会議を実施し、支援に携わる職員、管理責任者で見直しを検討しています。	関わる職員の見立てや意見をより反映できるような仕組みや会議の開催方法等検討していきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	管理責任者や担任等、子どもの状況をよく理解した者が参画できるよう体制を整えています。	さらに他機関と連携のできる方法や、会議での共有の方法を探っていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	アレルギーやてんかん等をお持ちの子は、医療機関や主治医の情報を聞いておき、連携ができるようにしています。また、必要に応じて相談支援事業所と状況を伝えあったり相談をしたりしています。	地域の他機関とさらに連携の取れる方法を考えていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	積極的に保育所等訪問支援を併用していただくことで情報共有や連携を図ったり、サービス担当者会議にて支援内容の相互理解に努めました。	併用している幼稚園や保育園との密な連携について、相談支援員のついておられない方であっても積極的に支援会議を開催していけるよう工夫していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	保護者がサポートブックを作成する際に、助言をしたり、就学後の学校の先生を交えた支援会議にて支援方法等の見解をお伝えしています。	今後も子どもたちがスムーズに移行ができ、保護者が安心できるように、就学先との連携を深めていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	必要に応じて子ども未来センター等の訓練の様子を見に行き、子どもへの支援の助言を受けました。また未来センターの施設見学も行いました。	他機関との連携を深めるとともに、子ども未来センターのアウトリーチを受ける等で療育の充実を図ります。
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○	日々公園へのお散歩に出かける中で、地域の子どもたちと関わる機会がありました。法人行事の火を囲む会、子ども食堂、ひだまり親子探検、みんなのいえのイベント等、地域に開かれた行事を多数実施しています。	地域に開かれた当事業所の良さをいかしながらさらなる交流を実施していきます。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時に保護者との情報共有を行い、療育の様子のお伝えや家庭での様子の聞き取りを丁寧に行いました。	ご家庭との連携をさらに深めることで、生活全体に根ざした支援を実施していきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	今年度はペアレントプログラムの開催を行いました。	次年度も保護者が参加できる研修の計画や、情報提供を行っていきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担額等について説明を行い、変更があった場合は都度対応、質問等あればその場でお答えしています。	支援プログラムや、その目的や意図等、より理解いただきやすい伝え方を考えていきます。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	日頃より子どもの観察をこまめに行い本人のニーズをくみ取っていくとともに、送迎時に保護者の意思の聞き取りを行い、半期に1度「要望書」をご提出いただいています。	子ども、保護者の意向を引き続き丁寧に汲み取っていくことで、よりニーズに合った支援が提供できるようにします。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	個別面談をする時間を設け、管理責任者とともにクラス担任も同席して丁寧に説明・ご意向を踏まえた同意を得るようにしています。	支援の意図や目的がより伝わり、ご理解を得られる伝え方を模索していきます
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	送迎時に保護者とのやり取りの中で子育てに関するご相談に応じるとともに、必要に応じて別途時間を設けて面談を行っています。	ご相談しやすい雰囲気や仕組み等を考えることで保護者のお悩みに答えやすいようにしていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	ペアレントプログラム、保護者会、兄弟児のつどい等、保護者やご家族が交流できる機会を設けました。	引き続き、交流する場を提供していくことで、保護者同士の安心できる繋がりを作れるようにします
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	送迎時のお話や連絡ノートの記載によりご相談を発信していただき、都度応えていくとともに、必要に応じて管理責任者が対応したり、別途時間を設けて面談をしたり、家庭訪問を行ったりしています	必要に応じて別の機関につないだり、相談できる場所を紹介したりする等の対応も考え、相談事へ適切に応じることができるようになります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月療育の活動内容や開催行事の詳細をお伝えするお便りを発行するとともに、HPで子ども様子を発信しています。また今年度から公式ラインを導入しました。	引き続き、活動内容や行事、連絡体制等必要な情報を、保護者に分かりやすい形で発信していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	契約時に個人情報についてご説明しています。また、写真の使用について、細かくアンケートを取ることでご意向に沿うようにしています。	個人情報に注意深く配慮していくとともに、必要な情報を発信できる方法を考えしていきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	イラスト、写真等、子どもひとりひとりにとって分かりやすいコミュニケーションの方法を探り実施しています。また、保護者に向けての発信も、お便りの配布に加えて必要に応じて個別でご説明をしています。	今後もその子その子に合うコミュニケーションの支援を行うことで、成長に繋がっていきます。また、より情報発信のしやすい方法を探ります。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域の神社で「火を囲む会」を開催したり、秋まつり、子ども食堂、ひだまり親子探検を開催したり、地域に開かれたカフェを運営する等、地域との繋がりを深められるようにしています	当法人の地域に開かれた場所、という特色を生かし、引き続き、地域との繋がりを深めていきます。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	作成した各マニュアルをもとに、子どもたちの避難訓練を実施しており、その様子等を保護者へお伝えするようにしています。また、職員会議にて訓練やマニュアルの共有を行っています。	マニュアルをHPにて発信する等、保護者への周知の方法を探っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPの策定を行い、法人職員全体でBCPを想定した訓練の実施を行い、非常災害の想定をしました。	これからの定期的に訓練等を実施していくとともに、必要に応じて都度BCPの改定を行います。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	入園契約時に細かく聞き取りを行い、対応方法を確認するとともに、毎年度初めに改めて服薬やてんかん等についての確認を実施しています。	引き続き細かな対応を行っていくとともに、てんかん時の対応や薬に対する研修等を検討します。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	契約時にアレルギーの確認を細かく行い、調理活動の際には、使用する材料を事前に公表するとともに、アレルギーや未接種のものがなければ都度確認しています	今後も食育を実施していく中で、丁寧にアレルギーの確認を行い、食材への理解を深めていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	職員研修の場で災害や不審者対応等を学ぶ場を設けるとともに、定期的に訓練の実施を行っています。また、職員が順番で施設の安全点検を実施しています。	丁寧な安全点検を続けていき、気が付いたことや改善点を出し合っていくことで、より安全管理に努めます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約時に避難場所等の確認を行ったり、緊急連絡先を毎年度初めに都度聞くことで連携がスムーズに取れるようにしています。	マニュアルや安全計画の周知の方法を検討して実施していきます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットが起きた際に、都度振り返りの時間に再度起きない対策について分析を行い用紙に記載すると共に、ラインワークスでも共有し、チーム全員で共有ができるようにしています。	状況分析や、丁寧に周知を続けていくことで、今後も再発防止を図っていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待に関する職員研修の場を設け、防止への意識や知識を高めるとともに、適切な対応ができるようにしています。	定期的に研修の場や、自身の姿勢を振り返る場を設けていくことで、日々意識を高く持てるようにしていきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束に関する職員研修の場を設け、組織的に決定をする流れを整えています。	現在該当する利用者がいないため、実施はしていませんが、今後やむをえない場合が出てきた際には、適切な流れで対応をしていきます。	